

昭和40～49年

1965～1974

発足二十年の経過、目標に邁進



昭和40年、三重県出身5万3千余柱の戦没者を慰霊する「三重の塔」を沖縄県摩文仁ヶ丘の戦跡に建立



昭和40年、戦没者の妻に対する特別給付金の支給実現を記念し靖国神社境内に「時計塔」を建立



昭和41年、靖国神社の国家護持を請願する全国大会に参加する三重県遺族会青年部代表



昭和44年、三重県遺族会二十年誌を発刊



昭和44年、靖国神社創立百年記念大祭に天皇・皇后両陛下御親拝

世相メモ 昭和45年

大阪で「人類の進歩と調和」をテーマに万博を開催。77ヶ国が参加し、入場者は延べ6422万人に達した。赤軍派学生による日航機「よど号」ハイジャックや三島由紀夫の割腹自殺などのショッキングな事件が起こった年でもあった。

昭和40年 (1965)

6月 沖縄摩文仁ヶ丘に三重の塔完成
除幕式

8月 戦没者遺族に特別弔慰金支給が実現
悼式、日本武道館で

昭和41年 (1966)

3月 三重県議会で「靖国神社国家護持推進」請願採択

4月 靖国神社国家護持全国戦没者遺族大会を開催

6月 青年部四代目部長に川戸眞一氏
12月 第1回三重県戦没者追悼式、三重県文化会館で

昭和42年 (1967)

昭和43年 (1968)

9月 三重県遺族会結成20周年記念式典
5月 三重県遺族会婦人部・青年部合同大会開催

昭和44年 (1969)

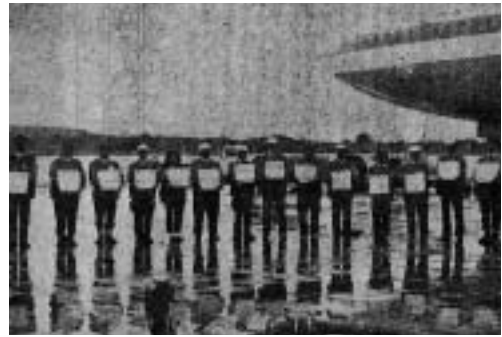
6月 靖国神社国家護持法案、国会に提出
8月 第61国会閉会により靖国法案廃案となる

昭和45年 (1970)

2月 日本遺族会青年部、新体制を敷き、登録制となる
5月 第63国会で靖国神社法案、再び



昭和47年、初の青年部による遺骨収集報告会



昭和46年、初の遺児によるサイパン・テニアン島の遺骨収集に三重県からも6名が参加



昭和47年、田村新会長就任奉告祭
(前列中央から、堀江婦人部長、大谷参議院議員、田村会長、徳永衆議院議員、吉川福祉部長、米川副会長)



昭和47年、齋藤会長が急逝。同年、三重県護国神社宮司・林榮治氏も逝去

世相メモ
昭和47年
日本軍の無条件降伏発令を知らされずグアム島に滞在し続けていた横井庄一氏が発見され、戦後28年目にして帰国。また、サンフランシスコ平和条約でアメリカの施政権下においていた沖縄が日本に返還され、新生沖縄県が誕生した。



昭和49年、日遺青年部が靖国神社境内に「母の像」を建立



昭和48年、三重県遺族会館の建設が決定し、鍬入れ式を開催

世相メモ
昭和49年
戦後プロ野球のスターであった巨人軍・長嶋選手が、「我が巨人軍は永久に不滅です」の名言を残し、惜しまれながら現役を引退。また、横井氏と同様、日本の敗戦を知らず派遣された地に留まっていた小野田元少尉がフィリピン・ルパング島で、中村輝夫氏がインドネシア・モロタイ島で発見され、帰国した。

昭和46年
(1971)

5月 青年部六代目部長に谷嘉昭氏

第65国会で靖国神社法案、三度廃案となる

11月 日本遺族会青年部が初めて戦没者の遺骨収集を実施、サイパン・テニアンへ三重県から6名参加

昭和47年
(1972)

3月 青年部初の遺骨収集報告会(四日市市民ホール)

9月 齋藤昇三重県遺族会長逝去、後任会長(六代目)に田村元氏(衆議院議員)

昭和48年
(1973)

4月 靖国神社法案、第71特別国会に議員提案で提出

6月 三重県遺族会館建設を決める

9月 靖国神社法案、衆議院で継続審議となる

昭和49年
(1974)

5月 靖国神社法案、衆議院で可決、参議院に送付

6月 靖国神社法案、参議院議長預かりとなり、会期末廃案

12月 三重県遺族会館起工式
日本遺族会青年部、靖国神社境内に母の像建立